

お茶会だより 8月号

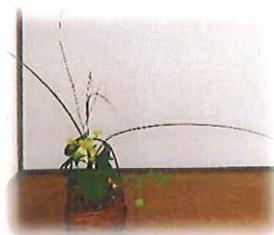
矢島保輔 R5.8.23

先月に引き続き、糸谷合案内所でのお茶のお稽古でした。前回は「數居を踏まない」という作法に気を付ながら取り組む姿がみられました。お菓子やお茶を運ぶところに集中してしまい、数居の存在を感じていなかったり、見られたば声をかけてから竟識できずという感じです。

今回のお稽古では、お箸を使う作法に挑戦しました。箸を手に取るところから順序があり、先生のお手本を見ながら「右手」から持つて、「左手」下から支えて箸の持ち方に直すと考えながら一つ一つ丁寧に手を動かしていました。また、普段使っている箸よりも大きい箸だったこともあり、上手くお菓子をつかめずに何度も持ち直す様子も多く見られました。お稽古でした。箸の持ち方は、金鉢箸の持ち方にちがうため、日々の生活の中でも竟識して取り組んでいきたいと思います。

また、植田先生からは「正しい姿勢や背すじを伸ばすことも竟識して頑張りましょう」とのお言葉がありました。長い時間の正座は子ども達にとって大変ではありますから、回を重ねることに背筋を伸ばしてお稽古に取り組めるように努力をしています。普段から正座や背筋を伸ばしてお話を聞くことなど声をかけてから自分が気がいて竟識していくようになります。

【今月の床の間】



「暑い中にも沢山のとんぼが飛ぶ様子に秋が近くまで来ていると感じました。」と植田先生からお話をありました。残暑に合わせた床の間となりました。

《香合》「うちわ」



《茶花》

ミズヒキ・ススキ・シュウカイドウ
フウセンカヅラ・オミナエシ

【お茶会の様子】

植田先生から目を離すことなく真剣にお箸の使い方を教わっていました。その後は、一人一人がゆっくりと確かめながらお箸を使いました。

今日のお菓子は
お箸を使います。



お皿に手を
そえて…



右手で取って左手で
支えて…。

お菓子をお客様のところにお運びした後、皆さんにお菓子がいきわたるのを見ている姿もとても背すじが伸びていて立派でした。



次回もお箸を使ってのお稽古となります。
食事の時の箸の持ち方に気をつけ、正しい
持ち方が身についていくようにしたい
ですね。